

■2021年共通テスト倫理本試験分析

79.0% 68.0%

大問	全国 駿台 Bene	講座	問	講座 正答率	正解	自己 解答	配点	長生 現役 正答率	全国 正答率	全国 講座 差	
1 青年と 現代	75.5%	72.9%	1	50	1		3		60.0	▲10	M
			2	100	2		3		97.3	3	E+
			3	42	1		3		72.7	▲31	M
			4	100	3		3		98.2	2	E+
			5	83	3		3		77.3	6	M
			6	75	1		3		51.8	23	D
			7	32	4		3		53.6	▲21	D
			8	100	1		3		92.7	7	E+
2 思想の 源流	79.2%	53.9%	9	58	3		3		90.9	▲33	E+
			10	58	1		3		73.6	▲16	M
			11	58	2		3		90.0	▲32	E+
			12	33	2		3		82.7	▲50	E
			13	58	3		3		71.8	▲14	M
			14	33	5		3		49.1	▲16	D
			15	50	4		3		78.2	▲28	M
			16	83	4		3		97.3	▲14	E+
3 日本 思想	79.8%	71.3%	17	77	1		3		79.1	▲2	M
			18	31	3		3		42.7	▲12	D
			19	85	4		3		93.6	▲9	E+
			20	92	5		3		81.8	10	E
			21	62	6		3		91.8	▲30	E+
			22	38	2		3		64.5	▲27	M
			23	100	1		3		90.9	9	E+
			24	85	3		3		93.6	▲9	E+
4 西洋 思想	79.7%	74.4%	25	29	4		3		47.9	▲24	D
			26	62	1		2		61.0	1	M
			27	92	3		3		91.8	0	E+
			28	62	6		4		80.0	▲18	E
			29	100	2		3		100.0	0	E+
			30	85	4		3		97.3	▲12	E+
			31	92	4		3		97.3	▲5	E+
			32	54	2		3		67.3	▲13	M
			33	100	5		4		75.5	25	M

倫理

2021年共通テスト本試験

解答と解説

提出者 13 名

受講者平均
全国平均
長高卒業生平均

第1問 やや易 《「恥」について～源流思想》

I. 問1 1 正解は①

- ① 適当。ペテロからイエスの弟子を中心に、イエスの復活を信じ、イエスを救世主(キリスト)と信じる人々の集まりから成立したのがキリスト教である。
- ② 不適。性悪説を唱える荀子は、人間の欲望を礼によって規制する必要があると説いた。
- ③ 不適。天人相関説は、天の運行や自然現象と君主の政治に関係があるとする立場で、悪政が行われると災害が起きると考えられた。前漢の董仲舒が政治理論としてまとめた。
- ④ 不適。預言者の血統を重視するのは、スンナ派ではなく、シーア派である。

CHECK カリフ(ハリーフア)とは代理人・後継者のこと。シーア派ではムハンマドの従兄弟アリー(4代目カリフ)とその子孫のみをムハンマドの正統な後継者として支持するのに対し、スンナ派ではスンナ(ムハンマドの言行や慣行)に従うことを重視する。

問2 2 正解は②

- a. 「救いをもたらす神の力」を意味する語句は福音。福音とは、「喜ばしき知らせ・おとずれ」という意味で、神の救済の到来や、それを知らせるイエスの言行などを指す。
- b. パウロはイエスの教えを地中海世界へと伝道した人物。信仰の核心を「人が義とされるのは c. 律法 の行いによるのではなく、信仰による」(「ローマ人への手紙」)と表した。ユダヤ人の戒律を遵守することは救済されるための条件ではないとしたことで、キリスト教がユダヤ人以外の民族にも広がる基礎を築いた。

問3 3 正解は①

- ① 適当。エピクロスは「あらゆる苦痛や精神的な不安などを取り除いた魂の状態(アタラクシア)を理想の境地とした。
- ② 不適。エピクロス派の追求する快楽とは、刹那的・肉体的快楽ではなく、永続的・精神的快楽をいう。
- ③ 不適。「情念」を理性(ロゴス)に変えるとストア派の説明として正しい。
- ④ 不適。「あらゆる判断を保留すること」(エポケー)により魂の平安を得られると考えたのは、ストア派ではなくピュロンの懐疑派(懐疑主義)である。

問4 4 正解は③

- a. I 冒頭の会話文のXの2つ目の発言、「周りの評判は関係なく」「準備を怠けていたことに気付いて、恥ずかしくなる」から判断できる。

- b. 「他人の目を恐れたのではなく、自分自身を謙虚に振り返ることで、恥を感じた」というYの発言内容から、空欄 b には、「自分自身によって引き起こされる「慚」が入る。

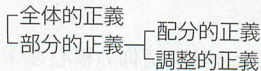
CHECK 「慚愧に堪えない」という表現は、自分の行いを恥じ、反省することを意味する。「慚」は「慚じる(はじる)」と読み、自己の罪を自ら恥じる心のこと。「愧」も「愧じる(はじる)」と読み、他人に対して自己の罪を恥じるときに用いられる。

II. 問5 正解は③

- ①不適。十戒などのユダヤ教の律法は「イスラエルの民が自ら定めた」わけではなく、神から与えられたとされている。
 ②不適。「王道の政治」と「霸道の政治」の語句を入れ替えると正しい内容になる。
 ③適当。ジャイナ教では、輪廻から脱するために、不殺生・不妄語・不偷盗・不邪淫・無所有の戒めを守ることを説いている。
 ④不適。「全体的正義」と「部分的正義」の語句を入れ替えると正しい内容になる。

NOTE アリストテレスの正義

アリストテレスは、すべての人が法律を遵守し正しい行為を行う状態にあることを全体的正義、人々間の公平と平等が実現されている状態を部分的正義と呼んで区別した。さらに部分的正義は、各人の業績に応じて名誉や報酬を配分する配分的正義と、各人の損益や得失が平等になるように調整する調整的正義に分類される。



問6 正解は①

荘子は、人間が作り出した善悪・美醜などの分別によって差別が生まれたと考えた。聖人が定めた「仁や義」を強調することによって、悪という概念ができてしまい、それを取り締まるための刑罰が必要とされていると述べている。よって、「仁や義」を批判する内容の選択肢①が適当となる。

CHECK 孔子は、周公旦の政治を理想とし、社会の混乱の原因は周公旦が定めた礼の制度が失われたことにあると考え、学問によって礼を復興させようとした。

- ②・④不適。「仁や義」を肯定しているので誤り。
 ③不適。墨家は儒家の仁に基づく親愛の情を「別愛」と呼んで批判しているので、「墨家は、儒家と同様に仁と礼の思想を重んじた」という記述は誤り。

問7 正解は④

イスラーム社会では、信徒が守るべき規範は、『クルアーン(コーラン)』やムハンマドの言行(スンナ)に基づいて成立した「シャリーア(イスラーム法)」に定められている。シャリーアは宗教儀礼から家族・身分に関するルール、民法・刑法・

国際法的規定まで含まれ、イスラーム銀行は「a. 利子」を禁止するシャリーアに沿って運営されている。

問8 正解は①

資料1でソクラテスは、「評判や名誉」の追求よりも魂への配慮を重視している。よって、③・④は不適。

資料2でキケロは、友への手助けは「あまりに恥ずべきことが結果しない限り」行ってもよいと述べている。「どのような場合でも行ってはならない」わけではないので、②・④は不適。

第2問 標準 《日本における時間の捉え方と人生観・世界観～日本思想》

I. 問1 正解は③

日本の『古事記』とギリシア神話の共通点として、多神教であり、究極的な絶対神がないことについての理解を問う設問。

選択肢前半の記述は、『古事記』に描かれた日本の天地の始まりに関する知識を問う。『古事記』には、「天地を創造した究極の唯一神」は登場しない。よって、①・②は誤り。選択肢後半の記述は、資料の内容に関するもの。ヘシオドスの『神統記』は古代ギリシアの神々の系譜をまとめた叙事詩。「ポントスやオケアノス」を生んだのはウラノスではなくガイアと書かれている。よって、②・④は誤り。

問2 正解は①

調べた結果から、「ひととき大きな仏」が「阿弥陀仏」であることと、このような絵が「平安時代後期から鎌倉時代にかけて」描かれたことがわかる。

仏教では、ブッダの没後、しだいに世が衰えていくと考えられ、正法・像法を経て、日本では1052年から末法の世に入ると信じられていたため、平安時代後期には浄土への往生を願う浄土信仰が広まった。それに伴い、阿弥陀仏が菩薩を従えて臨終を迎えた者のもとに現れる姿を描いた来迎図が盛んに描かれるようになった。

- a. 仏や菩薩たちは「極楽往生に導く」(①・②)のために現れる。
- b. 末法の時代の説明①・③が入る。②・④は像法についての説明。

NOTE 仏教の歴史観

正法	仏の教え(教)とそれに基づく修行(行)が存在し、悟り(証)が実現する時代
像法	仏の教え(教)とそれに基づく修行(行)のみが存在し、悟り(証)のない時代
末法	仏の教え(教)だけが残り、正しい修行(行)も悟り(証)もない時代

問3 11 正解は②

道元の思想内容の理解を問う設問。まず、道元の思想に関係のない選択肢を消去し、残った選択肢から空欄に入るものを吟味するとよい。

イ。道元は天台宗と臨済宗を学んだ後、宋に渡って曹洞禅を学び、帰国後、日本曹洞宗を開いた。南都六宗の立場ではないので、イは誤り。

ウ。浄土真宗の開祖である親鸞の絶対他力の思想内容。

エ。三密の修行による即身成仏を説いたのは真言宗を開いた空海。

よって、道元の思想についての記述はア・オ。空欄 b には「修証一等」の説明が入るので、オが適当。空欄 a に入るのは、「只管打坐」の説明であるアとなる。

II. 問4 12 正解は②

a. 徳川家康に仕え儒学を講じたのは、江戸時代初期の朱子学者である林羅山(1583～1657年)。

b. 林羅山は、天地自然の秩序は人間社会では身分秩序となってあらわれるという上下定分の理を唱え、これが具現化した法度や礼儀に従って生きることを説いたので、同旨の②-a・④-bが適当。

荻生徂徠(1666～1728年)は江戸時代中期の儒学者で、古文辞学を提唱した。①-a・③-bは古文辞学の立場の説明となっている。

問5 13 正解は③

ア。誤。石田梅岩は神道・儒教・仏教などの教えを融合した心学を説いた江戸時代中期の思想家。町人(商人)の営利追求を天理にかなうものとして肯定した。

イ。正。井原西鶴は江戸時代前期の浮世草子の作家。『好色一代男』など、欲望や富を追求する町人の姿を描いた。

III. 問6 14 正解は⑤

ア。日本思想のあり方を、様々な思想が雑居したタコソボ型と呼んで批判したのは丸山真男。日本を戦争へ導いた原因は「無責任の体系」にあると分析し、戦後民主主義の発展に大きな役割を果たした。

イ。小林秀雄は『様々な意匠』を発表し、近代日本思想は流行の意匠(デザイン)にすぎないと批判した。また、批評を、文芸作品の単なる解説を述べるものではなく、自己の思想を語るものとして、新しい文学のジャンルを確立した。

ウ。『共同幻想論』を著して、国家とは共同の幻想であると説いたのは吉本隆明。個人の自立を説いて、1960年代の学生紛争にも大きな影響を与えた。

問7 15 正解は④

- ①不適。ルソーの『社会契約論』を翻訳し、フランス流の急進的な民権思想を展開した人物に中江兆民がいる。
- ②不適。民俗学の創始者である柳田国男についての説明。
- ③不適。足尾銅山鉍毒事件の解決に生涯を捧げたのは田中正造。
- ④適当。南方熊楠はアメリカ・イギリスで博物学や生物学などを学び、帰国後は細菌学や民俗学研究も行った。各地の神社を統廃合する神社合祀政策に対して、人々の文化や信仰、自然環境が失われることを危惧し、反対運動を展開した。

問8 16 正解は④

- ①不適。資料文5行目に、芸術作品が「誰かが作ったという感じを失ってしまつて」とあるので、選択肢の「その作者の存在を強く意識させる」という記述は誤り。
- ②不適。資料文3・4行目に、芸術作品が「今後無限に存在すると思えないような特質を持っている」とあるので、選択肢の「その作品もいずれは消滅することを予感させる」という記述が誤り。
- ③不適。資料文7行目に、芸術作品が「人心の内部にしみ渡る」とあるので、「人々の心の中に浸透していくこともない」という選択肢の記述が誤り。
- ④適当。芸術作品の永遠性の意味を、資料文では「まるで無始の太元から存在していて今後無限に存在すると思えないような特質を持っている事」(3・4行目)と述べている。また、夢殿の観世音像は、「誰かが作ったという感じを失ってしまつて、まるで天地と共に既に在ったような感じがする」(5・6行目)と述べている。選択肢の記述はこの内容に沿ったものとなっている。

第3問

標準

《良心についての考察～西洋近代思想》

問1 17 正解は①

- ①不適。ルターの言葉は、信仰・政治・経済といった分野や知的な意味においても新たなよりどころとなったことが資料文で述べられている。よって、良心を諸問題から切り離すという趣旨の選択肢は適当でない。
- ②適当。ルターの言葉が「自ら現実に向き合おうと決意し、その決意に自分のアイデンティティを見いだそうとした人々にとって、新たなよりどころとなった」(資料文5～7行目)という記述に相当する内容。
- ③適当。「ルターを源とするこれらの概念が」「万人の尊厳と自由のための基盤となった」(資料文9・10行目)という記述に相当する内容。
- ④適当。「良心が人間各人のものであることをルターは強調し、それによって、平

等、民主主義、自己決定といった一連の概念へ通じる道を開くことになる」(資料文7～9行目)という記述に相当する内容。

問2 18 正解は③

- ①不適。自分を内省し「謙虚に自己吟味を続ける、懐疑主義的な精神」を説いたのはモラリストのモンテーニュ。
- ②不適。「あるがままの人間の姿を現実生活に即して観察し、人間の本来的な生き方を探求」したのは、モンテーニュやパスカルらに代表されるモラリスト。「高邁の精神」を説いたデカルトは、人間に生得的に備わっている理性によって真理を探究しようとする合理論の祖となり、モラリストとは立場を異にする。
- ③適当。高邁の精神とは、自らの意志によって情念を支配できる理性的な気高い精神のこと。人間は外部の影響を受けて、驚きや悲しみといった情念が生まれ、精神や行動が乱されることがあるが、高邁の精神によってこれを制御することができるとデカルトは説いた。
- ④不適。デカルトは「絶対確実な真理から出発」して合理的な推論や論証によって知識を導く演繹法を真理探究の方法とした。また、デカルトが「精神と身体・物体とを区別」する物心二元論を説いたことは機械論的自然観の基礎となった。いずれもデカルトの思想の説明ではあるが、高邁の精神の説明には相当しない。

問3 19 正解は④

資料文の趣旨に沿った具体的事例を選ぶ問題。資料文の内容は以下の通り。

- ・社会的通念は良心を生み出すものではなく、良心にとっては敵である。
- ・社会的通念から逃げ出し、応答しなくなった良心を無視し続けるうちに、いずれ良心を呼び戻すことも難しくなる。

- ①不適。「良心を感じるやましさが社会的通念への反発から「いっそう強くなっていく」という事例。資料文に沿って考えれば、良心は社会的通念に反発することはできず、「やましさ」もいずれ感じなくなる。
- ②不適。良心に照らして不正であれば「世間の常識」に従わないという事例。社会的通念に出会うと、逃げ出すか、押し黙ってしまうほど内気な良心には、社会的通念に従わないという強い姿勢を示すことはできないと判断できる。
- ③不適。「世の中のモラル」が良心を生み出したという内容は資料文の記述に合わない。
- ④適当。最初は他者の苦しみに共感して「良心が痛んだとしても」、良心の痛みから逃げているうちにいずれ「痛みを感じなくなってしまう」という事例。良心が「誰にも相手にされなくなって」いくうちに「応答しなくなる」という資料文の内容に沿っている。

問4 20 正解は⑤

キルケゴールは、絶望に陥って本来の自己を喪失した実存が主体性を回復していく過程を「実存の三段階」として示した。

第一段階 美的実存	利己的な快楽を追い求めて生きる段階。しかし、本当の満足が得られず、自分を見失い、倦怠と絶望にとらわれて挫折する。⇒ウ
第二段階 倫理的実存	社会の中での自分の義務と責任を自覚し、それを果たすべく、良心に従って生きる段階。しかし、倫理的に生きようとするほど、自らの限界に直面して挫折する。⇒ア
第三段階 宗教的実存	不安と絶望の中にある人間が、全人格を賭けた決断によって神への信仰へと飛躍する段階。「神の前に立つ単独者」としての自覚をもつことで、神との関係を取り戻し、絶望から救われる。⇒イ

問5 21 正解は⑥

- a. フーリエと同じ思想的立場の人物が入る。「搾取のない人道的な共同体を構想した」思想家に、フランスのサン＝シモンやイギリスのオーウェンがいる。オーウェンはイギリスでニューラナーク紡績工場の労働条件の改善に取り組んだ。エンゲルスはマルクスの協力者。
- b. マルクスやエンゲルスは自らの立場を「科学的社会主義」と呼び、人道的な方法で労働者の生活や労働環境の改善を試みた初期社会主義は科学的分析を欠いていると批判して「空想的社会主義」と呼んだ。

問6 22 正解は②

- ア. 正。フッサールは現象学の創始者。現象学は意識現象としてある「事象そのもの」を考察する。世界の実在性への判断をひとまず括弧に入れて停止すること（エポケー）によって、現象をありのままに記述することができる。
- イ. 誤。自己外化とは、自己の本質を対象化して、自分とは別のものとみなすこと。ヘーゲルが、精神が自分のうちにある理念を外に表すことで自己の本質である自由を実現していくことを自己外化（精神の外化）と表した。

問7 23 正解は①

- a. 空欄 a に続く R の発言の中で、いじめを止めるという行動を選ぶこともできたはずだ、と思いを巡らせていることから、アを導くことができる。
- b. 空欄 b に続く R の発言の中で、「次はきつと（いじめを）止める」という決意が語られているので、ウが入ると判断できる。

問8 24 正解は③

- ①不適。SとTの会話文では、「誰か」には自分自身も含まれるとされているが、他者と自己のどちらを優先すべきかについては言及がないので、「周りにいる人々が最も重要だ」という解釈は導けない。
- ②不適。第3問冒頭のリード文では、ルターの「悪を禁じる神の下にある各自の良心」や、デカルトの「意志の力」、スピノザの「理性の力」など、「知る」働き以外にも道徳や倫理を支える根拠となっているものが紹介されている。
- ③適当。会話文のTの最後の発言で、「良心が痛むとき」「本人もまた傷ついている」、「自分のことを大切に」すべきと語られている内容から、「誰か」が「必ずしも他の人に限られ」るわけではなく、「自分自身のこと」も含まれると解釈できる。
- ④不適。「知る」働きが停止してしまう危険性については、第3問冒頭のリード文の第4段落で、ホロコーストの原因は人々が「善悪の判断を放棄」したことにある、というアーレントの指摘が述べられている。

第4問

標準

《歴史の捉え方～青年期・現代の思想・現代の諸課題》

問1 25 正解は④

- ①不適。リオタールはフランスのポストモダン（近代以後）の哲学者。従来の世界を統一的に意味づけるイデオロギー体系としての「大きな物語」は終焉を迎え、個々の具体的な状況の中で思考する「小さな物語」が求められていると説いた。
- ②不適。フーコーは構造主義と関わりながら独自の思想を展開したフランスの哲学者。彼が提唱した「知の考古学」とは、人間が無意識のうちにその時代や社会の支配的な知の構造に規定されて思考していることを明らかにする歴史研究のこと。
- ③不適。レヴィ=ストロースは構造主義を確立したフランスの文化人類学者。未開社会には近代社会に劣らない高度な思考様式があることに注目し、西欧中心主義を批判した。
- ④適当。ハンス=ヨナスはドイツ出身のユダヤ人で環境倫理学の哲学者。人間は、現在だけでなく将来世代に対しても責任があるという世代間倫理を説いた。

問2 26 正解は①

ア. ユングはスイスの心理学者・精神分析学者。心のエネルギー（リビドー）が向かう方向性によってパーソナリティを外向型・内向型に分類した。

クレッチマーはドイツの精神医学者。性格と体型の相関に注目し、3つの気質に分類した。

イ. シュブランガーはドイツの哲学者。人が追求する価値によってパーソナリティ

を6つに分類した。

オルポートはアメリカの心理学者。成熟した人格の特徴をあげた。

問3 [27] 正解は③

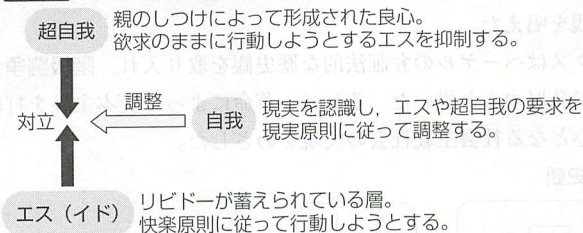
アメリカのジャーナリストのリップマンは、マスメディアによる世論操作の危険性を指摘した。リップマンによれば、マスメディアが提供する情報は「加工」されたイメージであり、大衆は事実とは異なる、その疑似的な環境に即して行動する。よって、イ・ウが正しい。

ア. 誤り。リップマンは、大衆が、「マスメディアが提供する情報」に「疑いの目を向け」ることなく、事実としてうのみにする傾向があることを指摘した。

問4 [28] 正解は⑥

- a. フロイトは人間の心を自我・エス(イド)・超自我の3つに分類し、自我がエス(イド)と超自我の対立を調整すると考えたので、④・⑤・⑥が適当。
- b. 「問題焦点型対処」に相当する内容が入る。③ーb・⑥ーbは、世界史の小テストの成績が悪かったという問題について、「勉強不足」という原因に目を向け、「計画的に勉強しようとする」という解決策を見出しているので適当。
- 気持ちを切り替えることや、運が悪かったと思込むことは、意識を変えることで心理的な負荷を軽減する試みなので、情動焦点型対処にあたる。

NOTE フロイトが説く心の構造



問5 [29] 正解は②

バリアフリーとは、障害者や高齢者など誰もが不自由なく日常生活が送れるように、生活においてバリア(障壁)となるものを取り除くこと。

①・③・④は「目の不自由な人や色が見分けにくい人」「車椅子に乗っていて手の届かない人」「手の不自由な人」など、障害がある人にとって使いやすくなるような取り組みの実例である。

問6 [30] 正解は④

- a. Pの立場に相当する内容が入る。第4問冒頭の会話で、Pは「犠牲者を歴史から消してはダメ」「記憶すべき事実はある」(8番目の発言)と言っているので、③-a・④-aの「(犠牲者の歴史については)忘れることなく書かれるべきだ」という内容が適当。
- b. 自然物にも人間と同等の生存の権利を認めるという立場の基礎にあるのは、自然そのものの価値を認めるという考え方(②-b・④-b)である。①-b・③-bは人間の利益を優先しているので不適。

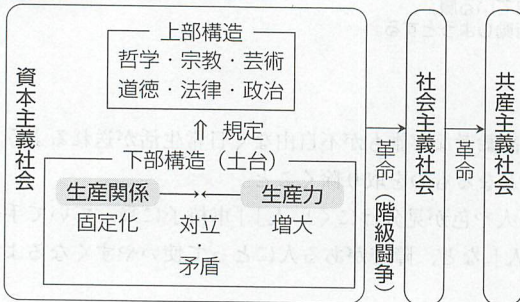
問7 [31] 正解は④

- a. <表「思い出す自信」の平均値>をみると、A群(4.8)>B群(4.0)となっている。
- b. 5分後のテスト結果を示すグラフはアとイ。
- c. 1週間後のテスト結果を示すグラフはウとエ。
- d. 「思い出す自信」についての評価はA群>B群、1週間後のテスト結果はA群(40%)<B群(61%)なので、評価の結果とテスト結果は「一致しない」。

問8 (1) [32] 正解は②

- ②不適。「物質的な生産関係」は上部構造ではなく下部構造(土台)である。マルクスは、「生産関係」という下部構造が、政治・宗教・芸術などの上部構造を規定するという唯物史観を唱えた。
- ①・③・④適当。マルクスはヘーゲルの弁証法的な歴史観を取り入れ、階級闘争が原動力となって社会が発展すると説いた。そして、革命によって資本主義を打破し、労働者階級が中心となる社会主義社会の実現をめざした。

NOTE マルクスの唯物史観



(2) **33** 正解は⑤

Pのレポートを通して、P・Qの立場の理解を問う設問。第4問冒頭の会話からP・Qの立場を正しく読みとれば、ベンヤミンについての知識がなくても消去法で正解を導くことができる。

- a. Pの主張が入る。会話より、Pの2・5番目の発言から、ウが入る。
- b. Qの主張が入る。会話より、Qの2・6・8番目の発言から、その立場をまとめたのはアである。
- c. 問8冒頭のベンヤミンの文章にある「かつて起こったことは何一つ歴史にとって失われてはならない、という真理を考慮に入れているのだ」という記述から、「過去のどの出来事も忘れられてはならない」と主張するイが入る。

CHECK ベンヤミンはユダヤ人で、フランクフルト学派第一世代の思想家。ナチスから逃れ、アメリカへ亡命する途中で自らの命を絶った。遺稿となった『歴史の概念について』では、勝者の側に立って歴史を把握する歴史観や進歩主義を批判している。そこには、抑圧された過去を回想するというベンヤミン独自の歴史に対する姿勢が見られる。また、複製技術の進歩によって現代の芸術作品がアウラ（オーラ）を失っていることを指摘した著作『複製技術時代の芸術』も有名である。